

私は平成 13 年に大学を卒業し、建設コンサルタント業界に入りました。以来、主に橋梁分野の仕事に携わっており、来年で 20 年目という節目を迎えようとしております。振り返ると本当に色々なことがあったと感じます。中でも一番印象に残っているのは、社会人 3 年目の大分県への転勤です。道外で働くことを全く考えていなかった当時 20 代半ばの私にとって九州に行くことなど、とても不安な気持ちでした。しかし、この経験が私の今までのコンサルタント人生において非常に印象深く、とても良い経験になったという思いは今でも変わりません。そこでは、大分県から宮崎県を繋ぐ東九州自動車道の一部区間で、現場の施工管理業務を約 2 年半行いました。私が携わった現場は、橋梁の下部工及び上部工工事で、何もないところから構造物が完成するまでの過程を一から実際の目で見ることができました。短い時間ではありましたが、普段机上で設計しているだけではわかりにくい“現場の空気”を感じることができた貴重な経験であったと思います。

現在社内では、若手の技術者を中心として、発注者や建設会社の方々にご協力を頂き、現場見学会を積極的に実施するようにしています。自分が設計した構造物が、実際どのように施工され出来上がるのか、また完成後の経過等、少しでも現場を経験させてあげたいという思いがあります。これから新たに設計を行う仲間達と「あの時現場で見たあの〜」といった話をして、少しでも良い成果品に繋がればよいと思っています。知識と経験が重要なこの業界では、私もまだまだ未熟者ですが、日々の自己研鑽に努め、微力ではありますが社会のために貢献していきたいと考えております。

橋本 松市 (はしもと しょういち)

●建設部門(鋼構造及びコンクリート)

勤務先

株式会社 開発調査研究所
構造部



→次号は、北川貴生さん(建設部門)

私は市町村魅力度ランキング 2019 で 1 位となった函館市に生まれ育ちました。小中学校時代は母が捌いた朝イカの刺身を食べてから登校したものです。今思えば贅沢な朝食でした。

その後、公共事業の行政機関に就職し、これまで土木の道一筋で現在まで働いてまいりました。

そんな私の趣味は旅行です。時には飛行機で、時にはバイクで日本各地に赴き、多くの古今の土木施設を見て回りました。北は稚内の北防波堤ドームから、南は沖縄宮古島の地下ダムなど。そんな中、印象に残った 2 施設をご紹介します。一つ目は富山県にある黒四ダムです。世紀の大工事と言われたこのダムは、映画「黒部の太陽」や NHK のプロジェクト X で取り上げられるなど、ご存知の方も多いと思います。実際訪れてみると黒部渓谷の険しさに驚きました。このようなところにこれほど巨大なダムを建設する苦労は容易に想像できませんでした。もう一つは北海道ノ国町にある石崎漁港トンネルです。どこ? という方が殆どだと思います。ここは防波堤を建設する代わりに、岬にトンネルを建設しそこから漁船が出入航するという工夫を凝らした施設でした。このトンネルは国指定登録有形文化財となっています。

この 2 つの事業は、関西一円の電力不足改善のため、漁村の漁船安全航行・停泊のためと事業規模・目的は異なりますが、共通して言えることは熱望されたインフラに対し、技術者の知恵と努力によって形を成し、経済活動や地域生活レベルの向上に寄与できたことではないでしょうか。私も技術士として、先人技術者たちの気概を見習い、今、そして未来に求められているインフラをより良いものにすべく、努力して行きたいと思っています。

桑田 一良 (くわた かずよし)

●建設部門(港湾及び空港)

●水産部門(水産土木)

勤務先

せたな町建設水道課



→次号は、本山賢司さん(水産部門)